

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月 19 日

【評価実施概要】

事業所番号	0170200778		
法人名	有限会社 ベストケア・ベル		
事業所名	グループホーム ベルⅡ		
所在地	札幌市北区屯田2条2丁目6-18 (電話) 011-775-7505		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成21年2月16日	評価確定日	平成21年2月23日

【情報提供票より】 (平成 21年1月 15日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 13 年10月20日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	10人	常勤	7人, 非常勤3人, 常勤換算7,9人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1~2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000~40,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費: 20,000円
敷 金	有 (円)	(無)	暖房費(11月~3月)10,000 円
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要 (1月15日 現在)

利用者人数	8名	男性	2名	女性	6名
要介護1	0	名	要介護2	3	名
要介護3	4	名	要介護4	1	名
要介護5	0	名	要支援2	0	名
年齢	平均	81,3歳	最低	69歳	最高 91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	遠藤内科医院・さとう歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「「ベルⅡ」は、バス停留所から徒歩5分ほどの距離にある屯田地区住宅街の社員寮を改造した利用定員8名の小規模で家庭的なグループホームである。運営者は、看護師の勤務を経て、「利用者職員が共に一つの鐘を鳴らす」という思いを込め平成13年、グループホームを開設している。健康の基本は食事であるという考えを基に、食材の品目数や彩り、食器などに配慮し食事を楽しむことができる支援をしている。管理者は、個々の職員の得意分野を活かし、利用者を中心に相互が支えあう生活を目指している。新年度は、研修に取り組むことで職員間の連携を更に深め、家庭的な親しみのある関係づくりと地域との交流を発展させていくことを目標としている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題である献立の専門的な栄養管理については、地域包括センターや保健センターなどの他機関に相談をし改善されている。理念の共有、水分摂取量の記録については、取り組みを継続中である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は1冊をリビングに用意し、各々の職員が記入する体制を整えている。職員は、同一の項目を複数の職員が記入することで客観的な視点を養うことができると考えている。記入した内容をミーティングで確認し、管理者と計画作成担当者が取りまとめている。外部評価は、事業所に掲示し運営推進会議のメンバーと家族に送付している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者の様子、行事、職員研修の報告、外部評価、自己評価、災害対策などを話し合い2ヶ月毎に事業所で開催している。また、職員が利用者とのかわり方について話をする時間を設けている。地域包括支援センターの協力を得て、町内会の会合で認知症の講演を行っていく予定である。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 玄関のフロアに意見箱を設置しているが家族からの苦情は無い。来訪時には、管理者や職員が話し合う時間を設け、家族からの意見は申し送りノートに記入し、職員間で情報を共有している。事業所の全体的内容と個別の様子は写真を掲載して毎月「ベルⅡ通信」で報告、金銭管理については当月の領収書の送付と残高の報告をしている。職員の交代は通信に記載し来訪時にも説明をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、職員と利用者が一住民として街路樹の花壇作りに参加している。町内会役員が地元の人々に利用者を紹介する場面もあり、事業所への理解と協力を得ている。事業所主催の夏祭りには、近隣の各戸にパンフレットを配布し、参加を呼び掛けている。今後は、子どもSOS避難所の掲示をしていく予定である。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所開設時に作成した法人としての理念は現在、職員会議で検討しているところである。職員との意見交換を下に、地域との交流を簡潔な文言で表現し、事業所独自の理念を作成する予定である。	○	事業所独自の理念を検討中ということなので、その実現に期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は1階玄関の壁に掲示し、職員のネームプレートの裏面に記載しているが長文ということもあり、共有するまでには至っていない。事業所独自の理念について認識を深め、話し合いを行っている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、職員と利用者が一住民として街路樹の花壇作りに参加している。町内会役員が地元の人々に利用者を紹介する場面もあり、事業所への理解と協力を得ている。事業所主催の夏祭りには、近隣各戸にパンフレットを配布し、参加を呼び掛けている。今後は、子どもSOS避難所の掲示をしていく予定である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は1冊をリビングに用意し、各々の職員が記入する体制を整えている。職員は、同一の項目を複数の職員が記入することで客観的な視点を養うことができていると考えている。記入した内容をミーティングで確認し、管理者と計画作成担当者が取りまとめている。外部評価は、運営推進会議のメンバーと家族に送付している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の様子、行事、職員研修の報告、外部評価、自己評価、災害対策などを話し合い2ヶ月毎に事業所で開催している。また、職員が利用者とのかわり方について話をする時間を設けている。地域包括支援センターの協力を得て、町内会の会合で認知症の講演を行っていく予定である。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市への訪問や電話などで事業所の指定更新に関する書類作成の指導を受けている。生活保護受給者の医療機関での検査や入院費用について北区から情報収集をするなど不明な点は行政に相談し確認している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所の全体の内容と、個別の様子は写真を掲載して毎月「ベルⅡ通信」で報告をしている。居住地の関係で来訪回数が少ない家族には、1ヶ月の生活の様子を手紙で報告している。金銭管理については当月の領収書の送付と残高の報告をしている。職員の交代は通信に記載し来訪時にも説明をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関のフロアに意見箱を設置しているが家族からの苦情は無い。来訪時には、管理者や職員が話し合う時間を設け、家族からの意見は申し送りノートに記入し、職員間で情報を共有している。家族会の発足を予定しており、またホームページを公開している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同一法人の事業所間で欠員が生じた場合は、異動を行っている。職員の交代は、利用者の心身の状況に応じて、その都度説明をしているが利用者の心理的ダメージは少ないと考えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実	○印	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
			(実施している内容・実施していない内容)	(取り組みを期待したい項目)	
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員は、勤務年数や得意分野に応じて勤務扱いで年2～3回ほど外部研修を受講している。ファイルに研修資料やパンフレットをまとめて全体会議や申し送りで伝達講習をしている。今年度は、研修を主催する機関の年間計画を参考にし、事業所の大まかな研修計画を作成する予定である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、北区のグループホーム管理者連絡会の研修に参加している。また、他事業所の主催の講習会に参加し、排泄介助の方法やおむつ利用の制度について学ぶ機会を持っている。同一法人と合同で行事を企画することもあり、同業者との交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や地域包括支援センター、居宅介護支援事業所のケアマネジャーからサービス利用の問い合わせがあった場合には、家族に見学することを勧めている。入院中の場合は、病院を訪問し可能な範囲で本人の思いを聞き取るようにしている。段差や階段、居室内の温度などの建物の構造上の課題についても説明し納得が得られるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、戦争を体験してきた利用者から食べ物や衣類の大切さを学んでいる。利用者から「もったいない」「家族は大切」という言葉を繰り返し聞くことで職員は、思いを新たにし、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者に「どうしますか？」などの言葉かけをすることで、本人の自己決定を促し、思いや意向を把握するように努めている。表現することが難しい場合は、視点を変えて言葉を選び、職員間連携にて本人本意に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成者は、センター方式を基にアセスメントを実施し、特に、「できること」「できないこと」シートを取り上げ、職員間で課題を話し合っている。本人・家族の意向を入れ、医療的な見解も加えて介護計画を作成している。本人も同席し内容の説明後、同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに見直していたが、現在は基本的には6ヶ月ごとの見直しで、本人・家族の意向を聞きながら新たに作成している。個人簿に計画を貼り、変化や気づきを記載し、それらを申し送りやカンファレンスなどで話し合いケアに活かしているが書類上に反映していない時もある。	○	話し合っている介護内容の見直しを書類上にも反映できるよう、状態の変化がある時は新たな計画を作成し、また、変化が見られない場合でも細かく確認し、現状に即した介護計画の見直しに期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関との連携から、早期の退院や往診・看護師の訪問などで点滴の対応も可能である。通院、買い物、床屋などの送迎を個人の状況や希望に応じて支援している。また、寝具を用意し家族がいつでも泊まれるように配慮している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、本人・家族が希望する受診先を確認している。協力医療機関という安心もあり自然に協力医の受診に移行し、ほとんどの利用者は月2回の往診、週1回の看護師の訪問による健康管理が行われている。緊急時には夜間の往診もあり、事業所の看護師を中心に常に連携をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の契約時に重度化や終末期に向けた事業所の方針を書類で説明している。本人・家族・主治医、看護師と話し合う中で、「看取りに関する指針」、「看取り介護についての同意書」を、その時になって交わし看取りをした例もある。今後は、本人・家族と同意書を交わす時期を事業所として明確にしたいと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄時の対応に注意し、また過去の個人的な話を嫌がる利用者には触れないように配慮している。対応の中で傷つけるような言動があった場合は、その場で職員間で注意し合っている。書類関係は事務所に保管しており、記録等、リビングに置く時は、来訪者の目に触れないように取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中はラジオ体操、午後から棒体操など、大まかに決めているが、寝たい人、参加したくない人には無理強せず、それぞれのペースで過ごしている。買い物、ドライブ、散歩など、個人的な希望には可能な限り対応している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実	○印	取り組みを期待したい内容
			(実施している内容・実施していない内容)	(取り組みを期待したい項目)	(すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一日、30品目の食材を使い、食器や盛り付けを工夫し目でも楽しむように努めている。利用者は野菜を切り、味見をして職員と一緒に食事作りに参加し共に食卓で会話を交わしている。利用者は盛りつけた自分のご飯茶碗を選び、食後は食器を洗い場まで運び、出来ることを自然に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の午後から入浴ができる態勢になっており、最低でも週2回、たっぷり時間をとって入浴を楽しめるように支援している。夏季にはシャワー浴も希望に応じ実施している。夫婦での入浴や羞恥心に配慮しての同性介助など柔軟に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は出来ることを探し、タオル畳み、畑の水やり、食事の一連の手伝いなどをお願いし、一人ひとりの力を引き出している。利用者はホーム内でゲーム、トランプ、作品作りを楽しんだり、弁当持参で外に出かけたりして気晴らしをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	健康維持や気分転換のため、積極的に外出を支援している。夏季には天候を見て毎日出かけている。公園でおやつを食べ、近所の庭の花を見て回り、近くの雑貨店で買い物をするなど、それぞれに楽しんでいる。冬季には大型店舗に出かけることもある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に取り付けたベルの音で出入りを把握し、日中は鍵を掛けずに見守っている。外に出たい素振りがある時は、同行して安全に対応している。近隣には災害時の協力と、利用者を見かけた時は一報をもらうなど、文章を配布し住民の協力を呼び掛けている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	年に2回、マニュアルに沿って、自主避難訓練を実施している。避難誘導の様子を写真に撮って、結果を話し合い、反省点から次の訓練につなげている。次回には消防署指導の下で火災避難訓練を予定している。	○	消防署の協力で、夜間を想定した避難訓練行う予定ということで、近隣の協力も得られよう期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が1週間ごとの担当制をとっており、食べたいものを利用者に聞き、多彩な食材で栄養バランスにも十分に配慮して作っている。水分はチェックしているが1日の水分量は記録していない。食事量は内容を介護記録に記載して把握している。	○	個人の一覧表に食事、水分の記載欄があるので、一日を通しての摂取量が一目で分かるような方法で、さらに職員間での共有を深めることに期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	社員寮を改造した共有空間は玄関、ホールが広く、居間から居室への移動が容易である。2階の談話室は明るく、ゆったりしたソファに落ち着いた装飾で家庭的な雰囲気になっている。着物の布や毛糸を素材にしたおしゃれな作品が壁など至る所に飾られている。利用者と一緒に作った季節感あふれる貼り絵は暖かい雰囲気を作り出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口に暖簾をかけ、プライバシーに配慮している。改造から広さの違いもあり、夫婦の二人部屋は面積が広く、居間とベッドを分けて家庭的な趣がある。個室には馴染みの家具類、鏡台、壁には家族の写真が貼ってありその人らしい居室になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。